

世界各地域における ET の現状を把握するために IETS 委員会が開かれた。集められたデータの多くは過小評価されているので、正確な傾向を導き出すのは困難ではあったが、いくつかの国における現状と前年との対比を報告する。

2007 年、採卵は世界で 122,000 回以上行われ、これは昨年とほぼ同様であった。その結果、760,000 個以上の移植可能胚が回収され、新鮮胚および凍結胚含め約 580,000 個が移植された。地域によってばらつきはあれ、新鮮胚と凍結胚の割合はおよそ 1 : 1 であった。今回はデータの収集がうまくいかなかったため、移植胚の総数は 2006 年と比べ 15% の減少となってしまった。しかしながら毎年継続的にデータが集められている地域においては移植胚数の有意な増加が認められた。例えば北米においては 11% の増加、ヨーロッパにおいては 3% の増加となった。胚回収数および移植胚数は地域によって偏りがあり、北米が 50% 以上を占めている。そしてヨーロッパとアジアが約 17%、南米が約 12% である。特筆すべきはほとんどが肉牛から回収されており（78%）、乳牛ではほとんど実施されていないことである。

国別に見ると、総数としてアメリカでは 247,736 個のウシ胚が移植され、その数はもちろん世界 1 位で、約 48,000 個の胚が輸出され、1,800 個が輸入されている。日本では移植胚の 90% が肉牛であり、29,000 個の体内回収胚が貯蔵されている。韓国においては体外受精卵が体内胚よりも活発で、2,000 個のうち 80% が肉牛である。中国から得られたデータは非常に部分的であるので正確ではないが、ヨーロッパおよび北米を除けば日本でもっとも盛んに実施されており、60,000 個もの胚が移植され、そのほとんどは凍結胚である。続いてブラジルが 47,000 個となっている。（下記表参照）

今回はいくつかの地域におけるデータが収集できなかったため、かならずしも正確とはいえないが、ET 産業における、国を超えた相互利益のためにこのようなデータの蓄積は不可欠である。

国別 Top5（北米、ヨーロッパを除く）2007 年ウシ体内胚移植頭数

国	採卵回数	移植胚数		
		新鮮胚	凍結胚	総数
日本	9,459	18,278	41,414	59,692
ブラジル	9,405	41,402	5,292	46,694
中国	7,338	18,310	15,511	33,821
アルゼンチン	5,063	7,838	12,306	20,144
南アフリカ共和国	1,873	3,188	4,162	7,350